

東京海洋大学たんけん隊

東京海洋大学水圏環境教育学研究室の佐々木剛教授は、水圏環境教育プログラムを開発し授業実践研究をされている。深川フリモ編集部では、深川にある東京海洋大学により親しんでもらうため、近隣の小学校五校（越中島小・臨海小・平久小・数矢小・明治小）の一年生を対象にした「東京海洋大学たんけん隊」を企画した。



コンプから海を学び 海から川、山、環境を考える

「皆さん、お寿司は好きですか？」東京海洋大学の佐々木教授の投げかけに子どもたちがほぼ全員手を挙げ、教室内は一気にハイテンションとなった。ここは日曜日の東京海洋大学越中島キャンパス。集まったのは深川近隣の小学校一年生とその保護者30組。まずは、食文化から環境を学ぶ「コンプ学習」がはじまった。「美味しいお寿司にはご飯が必要ですね。お寿司のご飯を炊くにも美味しい味噌汁にもコンプが必要です。そのコンプは海の中にいます。」子どもたちの興味はコンプに移された。日本で生息する3種類のコンプが配られ、子ども達は触ったり匂いを嗅いだりして違いを五感で体感した。また、だし入りの味噌汁とだしなしの味噌汁を飲み比べ、ほとんどの子がその違いを感じ取った。「みんな、良い感性を持っていますね」と佐々木教授。また、海の中にいる状態の生のコンプを披露すると、子ども達はもちろん、保護者の方々も興味津々であった。「ヌルヌ



▲東京海洋大学水圏環境教育学研究室の佐々木教授

幼い頃から環境について 理解し意識することが大切

東京海洋大学は、1875年設立の三菱商船学校が源流の東京商船大学と、1888年設立の水産伝習所

形ドームは手動で360度回転することが出来ますよ。」こちらは残念ながら中を見学することはできなかったが、風格ある建物に写真を撮ったりして楽しんでた。「先日、中学校へ講座に行った時、近くの川の水質を調べたらとても悪い数値でした。食べた後のお皿を洗う時も、汚れをよくふき取れば、洗剤を使わなくてもきれいになりますよ。みんな、川や海が汚れないように、日常生活の中で気を付けていきましょうね。自然を大切に守っていきましょう。」全てのプログラム

学習を終えた子ども達は これからの未来の環境を担う

「この講座をきっかけに、子ども達も達に修了証が手渡された。一人一人、楽しみながら自然環境の大切さを学ぶことができたようで、子ども達の目が少しくましくも感じた。この講座をきっかけに、子ども達も達と海や川、自然に興味を持ち、海の資源を守ることに繋がるかもしれない。もしかしら、今日の参加者の中から海洋研究や海に携わる仕事を目指して東京海洋大学を目指すかもしれない。そんな未来を思い描きつつ、「東京海洋大学たんけん隊」は無事終了することができた。

この企画を実施するにあたり、佐々木教授をはじめ、ご協力いただいた学校関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



▲「コンプ学習会」の様子。3種類のコンプの違いを五感を使って感じとり、コンプのイラストを描いたり、親子で話し合ったりしていた



▲佐々木教授から一人一人に手渡された「修了証」を手に記念撮影
これが海の博士への第一歩になるかもしれない



▲「第一観測所」は日本最古と
言われている天文台



▲重要文化財「明治丸」の見学
船の中まで見学することができた

東京海洋大学を散策 歴史ある施設に残るロマン

（水産講習所）が源流の東京水産大学が2003年に統合してできた海洋研究に特化した大学だ。専門的な海洋研究はもちろん、地球環境や生物資源の研究・教育にも力を入れている。「子ども達には、山や川、海の自然界が循環していることが『食』に繋がっていることを幼い頃から理解して、川や海を汚さないように意識して生活してほしいんです。」と佐々木教授。「今回のコンプ学習もその一環で企画しました。『食』を通して『環境』を考えていくこと。それには小学校一年生くらいがちょうど良いのです。」

コンプ学習が終わると、東京海洋大学のシンボル「明治丸」と「旧観測所」の見学会に移った。外は雨だったが、参加者は飽きることなく見学会を楽しんだ。「明治丸は明治7年に竣工した鉄船で、小笠原諸島の領有や明治天皇の巡幸を担いました。今では重要文化財に指定されています。」と明治丸記念館のガイドさん。海洋国家としての現代日本の創世記を担ってきた歴史に、みんな熱心に聞き入っていた。

次に見学した「第一観測所」は明治36年竣工。「船舶の位置を知るには天文学が必須です。こちらの建物は日本最古の天文台だと言われています。当時は東洋一と言われた最新鋭の望遠鏡も配備され、屋根の半円